

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470400559		
法人名	社会福祉法人 平成会		
事業所名	グループホーム 花・花		
所在地	大分県日田市日田市日ノ出町156番地		
自己評価作成日	平成23年10月4日	評価結果市町村受理日	平成23年12月28日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成23年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームが街中にあるため、交通機関の利便性と職員体制の充実性を活かし、日々の食事作りに伴う買い物や調理、家事全般、外出行事や個別支援まで、入居者の思いに沿った支援が出来る体制にある。職員は認知症という病気を「我が身のこと」と捉え、認知症という病気に真摯に向き合い、入居者や家族の思いに寄りそい、そのうえで本人らしく生活できる環境づくりに日々取り組んでいる

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との付き合いを大切にし、普段から地域の在宅高齢者も支援をする体制を考えていこうとしている。また、利用者の個別支援計画を立て、家族の協力も得て、自宅に帰ったり、お墓参りをしたり、好きな外食をするなど、本人の希望に沿った外出支援を行なっている。職員の研修に力を入れており、事業所内部での研修だけでなく、外部に研修に行くことを勧めている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域・家族との連携を理念に掲げ、本人中心のケアを目標に日々取り組んでいる。自宅への外泊、ご家族と一緒に食事に出かける、入居前のご近所の方との交流をもつなど、個別支援に力を入れている。	地域密着の理念に沿った実践に全職員で取り組み、これまでの関係が切れないように配慮した個別支援が行われている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方はグループホームの運営に協力的であり、運営推進会議には地域の自治会長や民生委員、消防団員の出席が定着し、参加者も増加している。地域の方からの要望で過去に避難訓練を合同で行っており、今年もで実施する予定。	事業所では地域の人を対象に勉強会や寸劇を行うなど、認知症の啓発活動に力を入れている。地域もグループホームの運営に協力的で、徐々に理解者や応援者が増えている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のグループホームで協議会を結成。市の「認知症プロジェクトチーム」と合同で認知症の啓発活動(劇団公演)を実施中。また、運営推進会議のメンバーが中心となり認知症サポーターの養成講座を実施する予定。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所での取り組み(研究大会での発表内容の公開や活動)を報告し、意見交換をしている。グループホームでの生活の様子や課題について話し合い、運営に活かしている。	運営推進会議は2カ月に1回、定期的開催され、議事録も整理されている。自治会長や民生委員、消防団員、家族など参加者も多い。事業所の取り組みや外部評価結果などを報告し、参加者の意見や提案をもらっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎年担当者が代わられるが、運営推進会議には必ず出席していただき助言を頂いている。他の市町村の状況と比較・検討をしたり、地域性や待機者の状況を報告するなど情報提供にも努めている。	市職員が運営推進会議に毎回出席しており、事業所の運営の把握に努めている。事業所側も地域性や待機者の報告など、情報提供を行っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の思いやその背景を探りながら支援することを実践、それをかんがみ、危険箇所以外の開錠はもちろん、言葉の拘束にも留意し、入居者の思いを尊重したケアに取り組んでいる。	職員は身体拘束の弊害や禁止行為についてよく理解しており、見守りを行なって、利用者が出て行きたいようであれば一緒に行くなどのケアを行っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の勉強会において学ぶ機会を持ち、職員みずからが虐待(不適切なケア)について深く考え、自己を振り返りながら、日々のケアに取り組んでいる。		

事業者名: グループホーム花*花

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の開催する権利擁護の研修会に参加したり、必要時には公証人・行政書士やあんしんサポートセンターなどに相談しアドバイスをもらっている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には一項目ずつ説明し、ご理解いただいているか確認しながら契約している。	
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	あんしん介護相談員が定期的に訪問し、入居者・ご家族と話をしている。また入居者のご家族にアンケートを配り(無記名式)ご家族の意見を反映できるよう努めている。	市の嘱託の「あんしん介護相談員」による2カ月に1度の訪問で、利用者や家族に意見を聞いてもらい、内容を検討している。また、年に1回アンケートを実施して、家族の意見をサービスに反映させている。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場での活動はリーダーを中心に職員が主体となってボトムアップの体制で運営している。管理者が意見を述べ、それについて職員と一緒に考え、運営体制を調整している。管理者は定期的に職員の個別面談を実施している。	ケアの充実と職員意見の反映のためにリーダー制を採用し、管理者とリーダーが頻りに話し合い、運営を行っている。また管理者は個々の職員と定期的に面談を行い、意見を聞いている。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職場環境の改善に積極的に取り組み、給与改善、職員体制の充実など、他施設と比較しても十分な配慮を行なっている。職員もそのことを充分理解している。	
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、施設外研修への参加を積極的に促し職員もその期待に応えられるよう努力している。法人全体で研修会が開催され、各種委員会を中心に研修会等を実施、知識・技術の向上に全職員が取り組んでいる。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分県老人福祉施設協議会における「グループホーム委員会」での活動、「日田玖珠グループホーム協議会」6施設合同での研修会や意見交換会を実施、施設の枠を越えて地域全体の質の向上を目標に取り組みを実施中。	

事業者名: グループホーム花*花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始には、ご家族の宿泊や面会など、ご本人・ご家族が安心できることを一番に考え、柔軟な対応をしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居を決心するまでの家族の心痛を思い、私たちに出来ること、ご家族に出来ることを一緒に考え、協力しながらご本人を支援するように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて専門医や他職種(包括、施設相談員、ソーシャルワーカーなど)との協議を実施、本人やご家族が納得のいく支援ができるよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が「出来ること」「出来そうなこと」へ着目し、職員が先回りするのではなく、本人が「したい」「出来る」と思える環境づくりに努め「一緒に生活している」環境づくりに配慮している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員のケアの仕方などを参考にいただきながら、自宅へ帰る・ご家族と一緒に外出するなど、ご家族や友人と一緒に過ごす時間を作り、ご本人が安心して暮らせる環境づくりに協力していただいている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族宛新聞を毎月発行、親族・友人へ郵送しホームでの様子をお知らせすると共に「夏祭り」などのイベントへの参加を呼びかけ、ご家族や友人に参加して頂いている。また、ご本人の馴染みの場所や思い出の場所へ出かけている。	個別支援に力を入れ、馴染みの場所や思い出の場所などに出かけている。また、「花・花通信」を発行して、ホームの様子を知らせるとともに、事業所のイベントには、家族や友人、近隣の人などにも広く参加を呼びかけている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士お互いを気遣う場面はよく見られ、就寝時以外はホールでお喋りをしたりと和やかに過ごしている。出来る人が家事を行い、困っていれば助け合い、お互いを思いやって生活されている。		

事業者名: グループホーム花*花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族から相談を受けたり、ホームに立ち寄りくださることもある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の話をよく聞き、表情や行動を観察し、目に見えない本人の思い(不安感やストレス)に目を向けるよう努力している。また、ご家族と相談してケアの方向性を決定し、本人中心の支援に努めている。	日頃の会話から本人の思いや希望をくみ取るように努め、また、表情や行動を観察して思いや気持ちを理解し、ケアに活かしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の話を聞いたり、面会に見える方からお話をうかがうなど、これまでの生活の様子、大切にしていたことを継続できるように努め、馴染みのもの・場所、趣味など続けられるよう支援している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ホーム独自のアセスメントシートを定期的(3ヶ月に一度)に見直し本人の意思を探る・慮るよう努めている。また心身の残存機能の持続に努め、個別の日課を作成、一日の振り返りを毎日実施している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が個別に入居者を受け持ち、アセスメントからプラン作成まで関わり、担当職員中心に全員でモニタリングを実施、プラン実施には全職員で取り組んでいる。必要に応じて専門医・かかりつけ医のアドバイスを得ている。	担当の職員が利用者および家族の意見を聞き、全職員でモニタリングを行なってプランを作成している。見直しと変更は3カ月ごととしているが、変化がある場合にはその都度プランの変更を行なっている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄、食事・水分摂取量、バイタル、介護経過などを一覧で記録し、情報の共有に努めている。必要に応じて24時間生活シートなどを利用、ミニカンファレンスを実施し安心して暮らせる環境づくりに取り組んでいる。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療や訪問看護、リハビリ通院の実施、福祉用具の利用など、可能な限り柔軟な対応を実施している。		

事業者名: グループホーム花*花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>自宅への帰省を含めご近所の方との交流の機会の確保、地域に積極的に出かけるなど、入居前の生活の継続に努めている。</p>		
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>医療機関はご家族が納得のいくように協議し選定している。協力病院以外の医療機関、診療所の理解もあり、柔軟な対応(長時間待たずに診察できるよう配慮してもらい、訪問診療など)をして頂いている。</p>	<p>希望する医療機関をかかりつけ医とし、職員が付き添って受診し、家族に報告している。協力病院の訪問診療もある。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>異常や変化に気付いた時は、看護師や管理者に報告・相談し、協力医や担当医の指示のもと健康状態の観察を行なっている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>通院で対応できるものは可能な限り通院し、入院した際はリロケーションダメージを最低限に抑えられるよう早めの退院をお願いするなど、医療機関の理解を得ながら実施している。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ご本人の苦痛の有無が入院か、看取り実施かの見極めのポイントと考え、ご本人・ご家族、職員を含め関わる人すべての思いや負担感に配慮、話し合いの機会を多く持ち不安感の解消に努めている。看取りを行う上での職員のダメージは大きく、看取り後のケアにも留意している。</p>	<p>終末期のあり方についてはタイミングを見て話し合いを行ない、それぞれが納得できる方向を探りながら対応している。説明書や承諾書類も整備されており、これまでに4回の看取りを行なっている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急事態発生時の対応法の習得や、報告・連絡・相談できる環境づくりに努め、困ったときはすぐに相談・対応できるよう配慮している。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力を得て火災避難訓練(昼間出火想定の日間訓練、夜間出火想定の日間訓練)、非常呼集を実施しており、地域の方と合同で避難訓練を実施する予定。災害時の食品等の備蓄もある。</p>	<p>年に4回、法人との合同避難訓練を行なっている。昼・夜の出火を想定した訓練のほか、今年はスモーク訓練をやる予定で準備をしている。地域住民の避難場所となっており、備蓄もある。</p>	

事業者名: グループホーム花*花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーは誰もが持つ当たり前のことと認識している。利用者に限らず職員間でも互いの意見や思いを尊重するよう心がけ、誰もが自信を持って生活できるよう配慮している。	尊厳とプライバシー保護について職員はよく理解しており、普段の言葉かけや態度において、年長者を大切にしたいケアを心がけている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いを上手く表現できないことやBPSDの背景を読み取る努力をしたり、自ら行えることを取り上げずに見守ることを基本とし、出来ない部分をさりげなくフォローするように心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の体調や天候に合わせて外出や外食、散歩、買い物など実施。思いを伝えられない方の本位を探りながら一日を過ごせるよう配慮している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なじみの美容院へ行く、洋服を買いに行くなど本人の希望に沿った支援に努めている。日々の身だしなみや化粧、一緒に服を選ぶなど、ご本人の思いを大切にしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	三食手作りの食事が基本で、食材の買い出し・調理・片づけなど一連の作業を入居者と一緒に行っている。外食や外注(寿司の出前等)も楽しみの一つなので、手作りにこだわらず皆で楽しく食べることを目的としている。	ユニットごとに三食手作りの食事を提供している。1人か2人を連れて一緒に買い物に出かけ、出来る人には手伝ってもらい、食事が楽しみなものになるよう心がけている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の観察・記録、一日の総摂取量や、1週間を通しての様子など観察し支援している。水分補給用のゼリーや食事形態の工夫、好物の提供、個別の食器の使用などその方にあった食生活の支援をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの必要性について理解し、毎食後の口腔ケアを支援。ご本人の出来るところまで自分でしていただき、その方にあったケアの方法を検討・実施、情報の共有に努めている。		

事業者名: グループホーム花*花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	気持ちよくトイレで排泄出来ることを目標に、排泄パターンの把握に努め、必要に応じてパット等を使用。夜間のみオムツを活用し安眠を確保するなど排泄用品の使用によるダメージ、失敗によるダメージの双方を理解し支援している。	排泄パターンを考えた誘導で、気持ち良くトイレが利用できるように支援している。その人に合ったパッドやリハビリパンツを使用して、失敗のダメージを最小限にするよう努力している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認の重要性を認識しており、排便有無の確認、必要に応じて内服薬の調整を実施。同時に水分摂取量・運動量・食量にも留意し、良好な排便状態を意識したケアを実践している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日定時に実施だが排泄の失敗時にシャワー浴を行うなど柔軟に対応。それぞれの希望に合わせて毎日入浴から日を空ける方もあり、皮膚疾患に留意した石鹸やシャンプーの使用等を配慮、気持ちよく入浴できるよう支援している。	2日に1回くらいの入浴だが、希望があれば毎日入れ、シャワー浴なども行なっている。トイレに温かいおしぼり器を常備し、汚れやすい部分の清潔に心がけている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や身体状況に合わせて食後に居室やホールで休んだり、テレビ視聴などそれぞれのペースで生活している。消灯は入居者の様子に合わせて、好みのテレビ視聴や寝付けられない方への支援などご本人のペースに合わせて対応している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬のセット・管理は全職員で行い、薬の確認・変更・追加は情報の共有を徹底している。協力病院の薬剤師から薬の形態や副作用などについて丁寧に説明があり、協力していただいている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物や掃除、アイロン掛け、洗濯などの家事全般、得意料理を作るなど役割を持って生活している。またドライブや買い物、馴染みや思い出の場所へ出かけるなど、個別支援を行なっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の外出支援シートを作成し、ご家族の理解・協力のもと、ご本人やご家族が希望する場所へ出向く機会を作っている。	年1回のバス旅行には家族も誘い、温泉や景勝地などを楽しんでいる。日常的には職員が毎日、買い物や散歩、ゴミ出しなどに数人ずつ連れていくほか、家族の理解を得て連れ出してもらうなど、行きたい場所に行けるように支援している。	

事業者名: グループホーム花*花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方にはご家族の許可を得、自己管理をしていただいている。管理が必要な方でも自由に使えるよう配慮、外出時など金銭を手渡し、支払いの支援をするなどしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞い、手紙を出すなど支援している。ご家族からの電話の取次ぎ、携帯電話の所持、ご家族へ電話をするなど実施。家族宛新聞を毎月郵送し、近況報告や生活の様子を伝えられるよう努めている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	収納するものと装飾品を区別し、生活感を出しながらも雑然とした雰囲気にならないよう気をつけている。外の様子から季節や天気がわかるよう窓やカーテンの開閉にも配慮している。	リビングから外の天気や季節がわかるように、採光やカーテンの開閉にも声かけをして生活感を感じてもらっている。悪臭のないようにトイレや台所の清掃に心がけている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングやリビング、廊下等のソファ、畳間など、それぞれが思い思いの場所で過ごしている。天気の良い日は入居者同士で日向ぼっこをしながらおしゃべりをするなど和やかに過ごされている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの身体状況や生活リズムに合わせた備品(冷蔵庫やテレビ、椅子)をご家族と話し合いながら設置。冷蔵庫内容や家具の配置などリスクを考え職員が管理している部分もある。	自分らしい居室になるように家族と相談しながら家具や備品を考えて設置している。居室を清潔に保つように職員が心配りをしている。また、自宅付近の風景を写真に撮り、飾っている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの動線とリスクを意識し、動きやすい工夫(タンスなどを支えにして自力歩行できる配置、夜間のみポータブルトイレを使用、畳に布団を敷くなど)を行い、共用部分では椅子の高さを調整するなど環境整備に留意している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470400559		
法人名	社会福祉法人 平成会		
事業所名	グループホーム 花・花 2ユニット		
所在地	大分県日田市日田市日ノ出町156番地		
自己評価作成日	平成23年10月4日	評価結果市町村受理日	平成23年12月28日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成23年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームが街中にあるため、交通機関の利便性と職員体制の充実性を活かし、日々の食事作りに伴う買い物や調理、家事全般、外出行事や個別支援まで、入居者の思いに沿った支援が出来る体制にある。職員は認知症という病気を「我が身のこと」と捉え、認知症という病気に真摯に向き合い、入居者や家族の思いに寄りそい、そのうえで本人らしく生活できる環境づくりに日々取り組んでいる

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

[1ユニット目に記載]

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域・家族との連携を理念に掲げ、本人中心のケアを目標に日々取り組んでいる。自宅への外泊、ご家族と一緒に食事に出かける、入居前のご近所の方との交流をもつなど、個別支援に力を入れている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方はグループホームの運営に協力的であり、運営推進会議には地域の自治会長や民生委員、消防団員の出席が定着し、参加者も増加している。地域の方からの要望で過去に避難訓練を合同で行っており、今年もで実施する予定。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のグループホームで協議会を結成。市の「認知症プロジェクトチーム」と合同で認知症の啓発活動(劇団公演)を実施中。また、運営推進会議のメンバーが中心となり認知症サポーターの養成講座を実施する予定。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所での取り組み(研究大会での発表内容の公開や活動)を報告し、意見交換をしている。グループホームでの生活の様子や課題について話し合い、運営に活かしている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎年担当者が代わられるが、運営推進会議には必ず出席していただき助言を頂いている。他の市町村の状況と比較・検討をしたり、地域性や待機者の状況を報告するなど情報提供にも努めている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の思いやその背景を探りながら支援することを実践。それをかんがみ、危険箇所以外の開錠はもちろん、言葉の拘束にも留意し、入居者の思いを尊重したケアに取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の勉強会において学ぶ機会を持ち、職員みずからが虐待(不適切なケア)について深く考え、自己を振り返りながら、日々のケアに取り組んでいる。		

事業者名: グループホーム花*花 2ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>市の開催する権利擁護の研修会に参加したり、必要時には公証人・行政書士やあんしんサポートセンターなどに相談しアドバイスをもらっている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際には一項目ずつ説明し、ご理解いただいているか確認しながら契約している。</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>あんしん介護相談員が定期的に訪問し、入居者・ご家族と話をする機会を作っている。また入居者のご家族にアンケートを配り(無記名式)ご家族の意見を反映できるよう努めている。</p>		
11	(7)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>現場での活動はリーダーを中心に職員が主体となってボトムアップの体制で運営している。管理者が意見を述べ、それについて職員と一緒に考え、運営体制を調整している。管理者は定期的に職員の個別面談を実施している。</p>		
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は職場環境の改善に積極的に取り組み、給与改善、職員体制の充実など、他施設と比較しても十分な配慮を行なっている。職員もそのことを充分理解している。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は、施設外研修への参加を積極的に促し職員もその期待に応えられるよう努力している。法人全体で研修会が開催され、各種委員会を中心に研修会等を実施、知識・技術の向上に全職員が取り組んでいる。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>大分県老人福祉施設協議会における「グループホーム委員会」での活動、「日田玖珠グループホーム協議会」6施設合同での研修会や意見交換会を実施、施設の枠を越えて地域全体の質の向上を目標に取り組みを実施中。</p>		

事業者名: グループホーム花*花 2ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービス利用開始には、ご家族の宿泊や面会など、ご本人・ご家族が安心できることを一番に考え、柔軟な対応をしている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居を決心するまでの家族の心痛を思い、私たちに出来ること、ご家族に出来ることを一緒に考え、協力しながらご本人を支援するように努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>必要に応じて専門医や他職種(包括、施設相談員、ソーシャルワーカーなど)との協議を実施、本人やご家族が納得のいく支援ができるよう努めている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>本人が「出来ること」「出来そうなこと」へ着目し、職員が先回りするのではなく、本人が「したい」「出来る」と思える環境づくりに努め「一緒に生活している」環境づくりに配慮している。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>職員のケアの仕方などを参考にいただきながら、自宅へ帰る・ご家族と一緒に外出するなど、ご家族や友人と一緒に過ごす時間を作り、ご本人が安心して暮らせる環境づくりに協力していただいている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族宛新聞を毎月発行、親族・友人へ郵送しホームでの様子をお知らせすると共に「夏祭り」などのイベントへの参加を呼びかけ、ご家族や友人に参加して頂いている。また、ご本人の馴染みの場所や思い出の場所へ出かけている。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者同士お互いを気遣う場面はよく見られ、就寝時以外はホールでお喋りをしたりと和やかに過ごしている。出来る人が家事を行い、困っていれば助け合い、お互いを思いやって生活されている。</p>		

事業者名: グループホーム花*花 2ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族から相談を受けたり、ホームに立ち寄ってくださることもある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の話をよく聞き、表情や行動を観察し、目に見えない本人の思い(不安感やストレス)に目を向けるよう努力している。また、ご家族と相談してケアの方向性を決定し、本人中心の支援に努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の話を聞いたり、面会に見える方からお話をうかがうなど、これまでの生活の様子、大切にしていたことを継続できるように努め、馴染みのもの・場所、趣味など続けられるよう支援している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ホーム独自のアセスメントシートを定期的(3ヶ月に一度)に見直し本人の意思を探る・慮るよう努めている。また心身の残存機能の持続に努め、個別の日課を作成、一日の振り返りを毎日実施している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が個別に入居者を受け持ち、アセスメントからプラン作成まで関わり、担当職員中心に全員でモニタリングを実施、プラン実施には全職員で取り組んでいる。必要に応じて専門医・かかりつけ医のアドバイスを得ている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄、食事・水分摂取量、バイタル、介護経過などを一覧で記録し、情報の共有に努めている。必要に応じて24時間生活シートなどを利用、ミニカンファレンスを実施し安心して暮らせる環境づくりに取り組んでいる。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療や訪問看護、リハビリ通院の実施、福祉用具の利用など、可能な限り柔軟な対応を実施している。		

事業者名: グループホーム花*花 2ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>自宅への帰省を含めご近所の方との交流の機会の確保、地域に積極的に出かけるなど、入居前の生活の継続に努めている。</p>		
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>医療機関はご家族が納得のいくように協議し選定している。協力病院以外の医療機関、診療所の理解もあり、柔軟な対応(長時間待たずに診察できるよう配慮してもらい、訪問診療など)をして頂いている。</p>		
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>異常や変化に気付いた時は、看護師や管理者に報告・相談し、協力医や担当医の指示のもと健康状態の観察を行なっている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>通院で対応できるものは可能な限り通院し、入院した際はリケーションダメージを最低限に抑えられるよう早めの退院をお願いするなど、医療機関の理解を得ながら実施している。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ご本人の苦痛の有無が入院か、看取り実施かの見極めのポイントと考え、ご本人・ご家族、職員を含め関わる人すべての思いや負担感に配慮、話し合いの機会を多く持ち不安感の解消に努めている。看取りを行う上での職員のダメージは大きく、看取り後のケアにも留意している。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急事態発生時の対応法の習得や、報告・連絡・相談できる環境づくりに努め、困ったときはすぐに相談・対応できるよう配慮している。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力を得て火災避難訓練(昼間出火想定の日間訓練、夜間出火想定の日間訓練)、非常呼集を実施しており、地域の方と合同で避難訓練を実施する予定。災害時の食品等の備蓄もある。</p>		

事業者名: グループホーム花*花 2ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーは誰もが持つ当たり前のことと認識している。利用者に限らず職員間でも互いの意見や思いを尊重するよう心がけ、誰もが自信を持って生活できるよう配慮している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いを上手く表現できないことやBPSDの背景を読み取る努力をしたり、自ら行えることを取り上げずに見守ることを基本とし、出来ない部分をさりげなくフォローするように心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の体調や天候に合わせて外出や外食、散歩、買い物など実施。思いを伝えられない方の本位を探りながら一日を過ごせるよう配慮している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なじみの美容院へ行く、洋服を買いに行くなど本人の希望に沿った支援に努めている。日々の身だしなみや化粧、一緒に服を選ぶなど、ご本人の思いを大切にしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	三食手作りの食事が基本で、食材の買い出し・調理・片づけなど一連の作業を入居者と一緒に行っている。外食や外注(寿司の出前等)も楽しみの一つなので、手作りにこだわらず皆で楽しく食べることを目的としている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の観察・記録、一日の総摂取量や、1週間を通しての様子など観察し支援している。水分補給用のゼリーや食事形態の工夫、好物の提供、個別の食器の使用などその方にあった食生活の支援をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの必要性について理解し、毎食後の口腔ケアを支援。ご本人の出来るところまで自分でしていただき、その方にあったケアの方法を検討・実施、情報の共有に努めている。		

事業者名: グループホーム花*花 2ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	気持ちよくトイレで排泄出来ることを目標に、排泄パターンの把握に努め、必要に応じてパット等を使用。夜間のみオムツを活用し安眠を確保するなど排泄用品の使用によるダメージ、失敗によるダメージの双方を理解し支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認の重要性を認識しており、排便有無の確認、必要に応じて内服薬の調整を実施。同時に水分摂取量・運動量・食事も留意し、良好な排便状態を意識したケアを実践している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日定時に実施だが排泄の失敗時にシャワー浴を行うなど柔軟に対応。それぞれの希望に合わせて毎日入浴から日を空ける方もあり、皮膚疾患に留意した石鹸やシャンプーの使用等を配慮、気持ちよく入浴できるよう支援している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や身体状況に合わせて食後に居室やホールで休んだり、テレビ視聴などそれぞれのペースで生活している。消灯は入居者の様子に合わせ、好みのテレビ視聴や寝付けられない方への支援などご本人のペースに合わせて対応している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬のセット・管理は全職員で行い、薬の確認・変更・追加は情報の共有を徹底している。協力病院の薬剤師から薬の形態や副作用などについて丁寧に説明があり、協力していただいている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物や掃除、アイロン掛け、洗濯などの家事全般、得意料理を作るなど役割を持って生活している。またドライブや買い物、馴染みや思い出の場所へ出かけるなど、個別支援を行なっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	個別の外出支援シートを作成し、ご家族の理解・協力のもと、ご本人やご家族が希望する場所へ出向く機会を作っている。		

事業者名: グループホーム花*花 2ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理が出来る方にはご家族の許可を得、自己管理をしていただいている。管理が必要な方でも自由に使えるよう配慮、外出時など金銭を手渡し、支払いの支援をするなどしている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>年賀状や暑中見舞い、手紙を出すなど支援している。ご家族からの電話の取次ぎ、携帯電話の所持、ご家族へ電話をするなど実施。家族宛新聞を毎月郵送し、近況報告や生活の様子を伝えられるよう努めている。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>収納するものと装飾品を区別し、生活感を出しながらも雑然とした雰囲気にならないよう気をつけている。外の様子から季節や天気がわかるよう窓やカーテンの開閉にも配慮している。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ダイニングやリビング、廊下等のソファ、畳間など、それぞれが思い思いの場所で過ごしている。天気の良い日は入居者同士で日向ぼっこをしながらおしゃべりをするなど和やかに過ごされている。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>それぞれの身体状況や生活リズムに合わせた備品(冷蔵庫やテレビ、椅子)をご家族と話し合いながら設置。冷蔵庫内容や家具の配置などリスクを考え職員が管理している部分もある。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>それぞれの動線とリスクを意識し、動きやすい工夫(タンスなどを支えにして自力歩行できる配置、夜間のみポータブルトイレを使用、畳に布団を敷くなど)を行い、共用部分では椅子の高さを調整するなど環境整備に留意している。</p>		